

研究協力をお願い

昭和大学横浜市北部病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

抗菌薬適正使用調査
1. 研究の対象 2001年4月1日から2018年3月31日までに当院に入院した方
2. 研究目的・方法 我が国ではMRSA発生率が諸外国に比べ高い状況が続いており、高度な医療を提供する大病院を中心に多剤耐性緑膿菌等の薬剤耐性菌によるアウトブレイクが散発している。これら薬剤耐性菌の蔓延は患者の予後を悪化させ、医療コストを増大させる要因となるため、社会的にも感染対策の推進が急務である。多剤耐性菌の対策には、培養による早期発見、手洗い励行による伝搬抑制とともに、抗菌薬の過剰な使用による選択圧を減ずることが重要と考えられている。抗菌薬の適正使用については施設内の検討が必要であり、抗菌薬の使用量と薬剤耐性菌の発生状況の経年的比較、また使用患者の状態把握から方向性を検討するものである。
研究期間 承認日から2018年3月31日まで
3. 研究に用いる試料・情報の種類 (1) 病院における抗菌薬使用状況の調査（資料1） 各施設の薬剤部門の抗菌薬の払い出しデータから、年度毎の抗菌薬の使用密度を調査する。すなわち、各施設におけるAUD ¹⁰⁰ （antimicrobial use density：特定期間使用された抗菌薬の総使用量(g)を特定期間の100患者入院のべ日数あたりの規定1日使用量の数値）およびDOT（抗菌薬使用日数）を年度ごとに調査し集計する。

(2) 抗菌薬使用患者の調査
抗菌薬（広域抗菌薬）使用患者の使用届出書をもとにカルテ調査を行う。調査項目は、年齢、性別、使用薬剤、投与量、腎機能、主要感染症、既往、投与期間、培養結果、転帰などである。調査結果をもとに、抗菌薬使用患者の感染症や検出菌種などの集計を行う。

(3) 病院における薬剤耐性菌発生状況の調査
細菌検査室の検査データをを用いて、薬剤に関連した偽膜性腸炎の起炎菌である *Clostridium difficile* をはじめ、各種薬剤耐性菌について、年度ごとの検出状況を調査する（資料2）。各菌の検出率は各施設の述べ入院患者数から、1000ベット当たりの数値として集計する。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申下下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象と致しませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

研究責任者：

所属：昭和大学横浜市北部病院 薬局 氏名：橋本 裕子

住所：224-0032 神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1 電話番号：045-949-7000